



老若男女・家族で農業をして 感じたこと



農 家
内田 智

私は昨年4月にUターンし、新規就農をしました。両親が数年前から農業を営んでいたため、両親にも色々手伝ってもらいながら妻とともに家族で作業しています。春はズッキーニ、夏秋はナス、冬はネギを栽培し、それぞれの作物の準備や収穫が重なることが多々ありましたが、上手く家族で役割分担をすることで一年目を乗り切ることができました。

実は当初、すべての作業を私一人で行うつもりでした。しかし、周りの農家さんや家族のアドバイスから家族で作業することにし、それが良い結果につながったと感じています。

ナスを例に挙げると、私の場合、一人で作業すると最盛期では収穫・管理をするだけでも早朝から昼過ぎまでかかり、昼食休憩を取ると夕方近くになって疲労から午後の作業がなかなか進みませんでした。しかし、妻に手伝ってもらうことで昼前には終わられるようになり、他の作業(例えば、ナスの薬散、ネギの除草)に十分に時間があてられるようになったのと、優先すべき作業を後回しにせず行えたことで作物の品質向上につながりました。また、妻に作業を教えることで私自身の栽培の知識を深める

こともできました。私が力仕事を行っている間は、妻が直売出荷用の作物の管理やポップを作ることで直売所への出荷もでき、多くの品目を栽培する経験ができました。

また、両親には調整や袋詰めを手伝ってもらい大変助かりました。家族で意見を出し合ったり、得意な作業を担当したりすることで、効率化も図ることができました。

結果として、品質も収入も予定以上の成果が得られ、自信にも繋がりました。もし初年度から私一人で全ての作業をこなそうとしていたら、目の前の作業に追われ、効率化を考えたり栽培の知識を深めたりする余裕がなく、自信を無くしていたかもしれません。農業を始めたばかりのとき、先輩農家から、農作業は二人で行うと一人分が2倍になるのではなく、それ以上のことができるのだと教えてもらいました。確かに、家族で協力して作業することで出来るようになることは想像以上に多くあると感じた一年でした。

両親と妻に感謝するとともに、今後も家族で農業に励んでいきたいと思います。

問困市民課市民生活係(☎内線1027)

◎ 応募・申込方法 ◎ 申込先 ◎ 問合わせ先 ◎ 対象・資格 ◎ 内容 ◎ 定員 ◎ 料金・費用 ◎ 持参物 ◎ 他



市民活動通信

活動報告と 意見交換会を開催しました

2月21日、市民活動推進事業補助金の交付を受ける11団体の代表者など18人が参加し、活動報告と意見交換が行われました。

はじめに、3年間の補助金交付期間が終了した安中市子ども食堂連絡協議会が、「子ども食堂フェスタ」の事業内容や今後の展望について報告し、続いて人見ふる里会、碓氷峠の馬子唄保存会、特定非営利活動法人Annakaひだまりマルシェが、今年度から取り組みを始めた活動について報告しました。

意見交換会では、活動に対する市民の反応や手応えなど事業の効果について意見を交わし、普段は違う分野で活動する団体と課題や問題点を共有することができました。



問困市民課市民生活係(☎内線1027)